

一般社団法人 日本応用地質学会
令和5年度・2023 年度
第5回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録

日 時 : 2023 年 11 月 24 日(金) 15:00~17:00

場 所 : 国際航業株式会社 本社会議室、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、菊地副委員長、加地委員、野々村委員、濱田委員、水野委員、百嶋委員、山崎委員、
山田幹事

委任状提出: 越谷委員、昆委員、徳楠委員、百瀬委員、安田委員

陪席: 茶石顧問

議事:

1. 前々回議事録(案)の確認

- ・前々回(2023 年 9 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。
- ・14th ARC への調査団派遣については、日本からの参加申込み状況が不明なため見送ることとし、次回理事会で報告する。
- ・来年度の IAEG 年会費の改訂案(個人:3,500 円、賛助会員:3 万円)について、次回理事会で承認を得る。

2. 理事会報告

- ・令和 5 年度第 7 回理事会の内容について報告がなされた。

3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

(1) IAEG 事務連絡

1) IAEG Council Meeting 2023 (参加報告)

- ・学会誌への参加報告書(案)について説明がなされた。
- ・報告書(案)については委員会内での再チェック(誤字チェック、Ranjan 氏ミーティング関連(名称変更、意見交換の内容追加など)を済ませた上で、学会事務局へ再提出する(提出目標:12/15)。

2) 他 National Group との交流について

国際委員会で検討中の英語セッションとworkshopについて、関係部門(事業企画委員会、教育普及委員会、国際委員会)での意見交換の場が開催される予定。その場での意見聴取を行う。

①英語セッションの開催(2024 年研究発表会@香川)について

(全般)

- ・英語セッションの開催については、もう少し擬態的な案を次回理事会に提出する。

(開催方法)

- ・英語セッションについては、「IAEG アジア地区を対象としたイベント」という位置付けにする。このため、海外発表者の特典(例:当該 National Group 会員は 10 人まで無料聴講可能、とか?)についても検討する。
- ・発表候補者が多い場合は、2回(2か年)に分けて開催する。(但し、2025 年は 15th ARC(11 月、バングラデッシュ)の開催予定もあるため、スケジュール調整時には要注意)
- ・途上国からの発表では、発災時の衛星データ等の利活用事例や課題を紹介してもらい形が望ましい。

(発表者)

- ・各国の発表者を決める際には、関係者への事前の根回しを済ませた後に、各 National Group 代表へ

正式に依頼する形を取ることが望ましい。

- ・【ネパール】Ranjan 氏は、研究発表会での招待講演者となる予定あり。国際委員会としては、旅費の支給については田中治雄基金から支給する方向で検討してはどうか、という助言をすることとした。
- ・【韓国】Seo 氏は KSEG 会長を任期満了となった。英語セッションについては、IAEG のアジア各国との連携を対象としたものであり、英語セッションに関する韓国側の窓口は引き続き Seo 氏と位置付けてコンタクトする。
- ・【マレーシア】事前に前回 Congress で知り合った方に候補者を推薦してもらった上で、2月の14th ARC 参加時に Rasid 氏 (National Group 代表) へ直接依頼することも検討する。
- ・【その他】候補 National Group 以外にも、インド、ベトナム、インドネシアを含めて検討する。

②KSEG との Workshop の開催について

(全般)

- ・この企画については、2025年6~7月頃の開催を想定して準備を進める。まずは、教育普及委員会に相談してみてはどうか？
- ・2月の14th ARC 参加時に、JSEG-KSEG の取り組み事例として各国 National Group に紹介することを予定する。そのために、2月以前に具体的な活動を KSEG と詰めておく。
- ・KSEG との企画なので、IAEG アジア地区副会長である Seo 氏ではなく、KSEG 会長と調整を行う。ただし、Seo 氏との情報共有は図っておく。
- ・世話役は、民間企業(日本工営、応用地質など?)に担当してもらうことでどうか？
- ・国際委員会の担当者以外にも、東大や埼玉大の院生(修士)に協力してもらってはどうか？

3) Paul Marinos Distinguished World Tour Lecture for 2024 について

- ・上記内容について説明がなされた。(今回、Japan National Group からの推薦は無し)

4) IAEG オンラインアンケート

- ・上記内容について説明がなされた。

(2) その他

1) 学会誌 Bulletin 紹介

- ・次号(12月号)に記事が掲載予定である。次々号(2月号)の掲載に向けては、担当委員が作成済みの原稿を事務局へ提出する。

2) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。

3) 台湾 JJ Dong 先生との交流

- ・台湾の有力研究者である JJ Dong 先生が2024年1月~6月に京都大学防災研に滞在される予定であることから、2024年4月~5月に国際委員会を京都で開催することを検討する。

4. ホームページ関係

(1) JSEG 英語版 HP

- ・適宜、掲示情報の更新を行う。
- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や写真集コーナー新設(HP)(災害調査団&海外調査団(ネパールと韓国はある?))などの対応準備を進める。

(2) JSEG 日本語版 HP

- ・適宜、揭示情報の更新を行う。
- ・2023 Council Meeting 参加報告を掲載する。

(3) 学会 Facebook

- ・2023 Council Meeting 参加報告を掲載する。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演(海外事業の紹介、留学生や海外技術者から見た国内事情など)について、次回以降の委員会(1月 or 3月)に開催予定とし、まずは各委員にて候補者を選定する。

6. その他

- ・次回委員会(令和5年度_第6回)は、令和6年1月第二・三週で開催する方向で調整する。

以 上

*****以下、継続対応*****

●. 重要案件の対応

(1) 韓国・CHINESE TAIPEI Regional Groupとの交流推進 : 昆委員、百嶋委員 (+長谷川委員長)

・本活動は、下記(2)とのセット対応も含めて検討する。

・CHINESE TAIPEI Regional Group の連絡窓口は、以下の通り。

Dr. Ya-Chu Chiu. (Female) Assistant professor, National Chung Hsing University. clarice.chiou@gmail.com

Dr. Che-Ming Yang. (Male) Assistant professor, National United University. stanleyyangcm@gmail.com

Li-Yuan Fei, the representative of IAEG Chinese Taipei National Group

(2) 若手技術者向けの海外技術関連情報の発信 : 加地委員、徳楠委員、安田委員 (+菊地副委員長)

・秋の研究発表会で特別セッションを設け、JSEG 講演者(5名)と海外招待者1名(KSEG)の発表を行う。

(3) HP等での海外発信コンテンツの作成: 水野委員、百瀬委員、越谷委員 (+山田幹事)

・学会 Facebook の利活用方法など。

※災害調査団速報も含むため、災害地質研究部会への英訳作成協力を要請する。